

IAMSE (International Association of Medical Science Educators) 14th Annual Meeting 報告

埼玉医科大学情報技術支援推進センター 椎橋実智男
近畿大学医学部第二生理 松尾 理

IAMSE (International Association of Medical Science Educators) の 14th Annual Meeting が、2010年7月11日から13日の3日間、米国ルイジアナ州のニューオーリンズにおいて開催された。われわれは、今回これに参加・発表し、大変有意義な経験をしてきた。生理学教育をリードする立場にある、あるいは積極的に取り組んでいる多くの生理学会会員諸氏にも、これに参加して生理学教育を始め医学教育に対する新たな知見や活動の場を広げていただきたいと考え、その内容を紹介する。

IAMSE は、faculty development (FD) をとおした医学教育の発展、科学に基づいた医学教育の振興を目的に活動している学術団体である。meeting の参加者の専門は基礎医学、臨床医学、物理学、統計学など幅広いが、基礎医学、特に生理学の教員の割合が高いように思えた。参加者の中には、2009年に京都で開催された国際生理学会の参加者、その後神戸で行われた教育ワークショップに出席した研究者もいた。

今回の meeting には、20カ国から252名が参加し、7月11日から13日の3日間で88のポスター発表と6の口演が行われた。カテゴリーは、Assessment Curriculum, Instructional Methods, Professional Development/Student Support, TBL-PBL/Clinical Skills, Technology/eLearning であった。その運営の方法には下記のような大きな特徴があった。

1 前日に開催されるFDのためのワークショップなど

前日の7月10日に1日をかけて、Faculty Development Course と Pre Conference Workshops として多くのワークショップが開催された。参加者は、少人数で濃密なワークショップを受けることができた。

2 毎日開催される小グループによる集中討論

会期中は毎日、Concurrent Focus Sessions と称した、90分間の小グループに分かれてのセッションが開催された。このセッションでは、興味をもったテーマごとに小部屋にわかれて（各セッションは10人から40人程度が参加）、オーガナイザーの進行により、参加者が徹底した討論を行う。多くのセッションでは、参加者を7・8人程度のさらに小さいグループにわけて、その小さいグループが受け持ったテーマについて30分程度で議論してまとめ、その結果を発表しあい全体で討論する。つまり、このセッションのひとつひとつが小さいワークショップとなっていた。

3 ポスターセッションのまとめの小グループ討論

2日目の夕方、2日間のポスターセッションのまとめとして、カテゴリーごとに小部屋にわかれて Poster Discussion by Category が開催された。モデレーターの進行により演者が簡潔に内容を説明し、他の演者や興味を持った参加者が討論を繰り広げた。ポスターセッションでは個別に行われた



図1. plenary sessionの様子



図2. gala dinnerの様子

討論が、興味を同じくする者たちによってどんどん深められていったのが特徴であった。

4 一般演題はポスターのみ

基本的にはポスターとコンピュータを使ったデモ形式で、その中から運営側から指名された少数の演題が口演にまわった。一方で、Plenary Sessionとして、大きなテーマについて、その分野で活躍する研究者が60分間かけて講演したが、講演の途中であってもどんどん質疑応答が行われていた。

5 宿泊や食事もすべてセット

参加費は\$700と高額であるが、3日間すべての朝食、昼食、終日のドリンクサービスが用意されていた。また、2日目の夜にGala Dinnerと称する夕食会が行われた。参加者は皆同じホテルに宿泊し(宿泊費は別途)、同じホテル内のPlenary会場、ポスター会場、小部屋で3日間を過ごした。Plenary会場には、いわゆるスクール形式ではなく、10人掛け程度の丸テーブルが20数個おかれていて、朝食、昼食、Gala Dinnerもすべてここで用意された。よって参加者は、食事のときも含め、すべての場所で討論したり交流を深めたりできた。250人程度の少人数であるがゆえに2日目の夕方

のGala Dinnerの頃には家族のように挨拶を交わしあうようになった。この運営方法は、Federation of American Societies for Experimental Biology (FASEB)のSummer Research Conferencesと似ていると感じた。

上記の特徴をまとめるとIAMSEのmeetingは、familial, friendly, communicableかつcordialで「参加型・実体験型のmeeting」と言えるだろう。別の表現をすると、小さなワークショップの集合体なのである。非常に巧みに組み上げられたプログラムによって、参加者は自然に議論や交流を深められるように仕込まれていて、常に医学教育について考え、議論し、濃密な時間を過ごすことができる。

4日間、すべての面において、濃密で大変充実した時間を過ごすことができた。このmeetingのプログラムと抄録はIAMSEのホームページ(<http://www.iamse.org/>)からダウンロード可能である。今回は、2011年6月18日から20日まで、米国のフロリダ州で開催される予定である。百聞は一見に如かず。是非とも多くの方々に参加していただき、このmeetingのすばらしさを体験していただきたい。